

I 平成29年度事業報告

公益財団法人いばらき文化振興財団の設立趣意に則り、県民のニーズを踏まえた魅力ある文化振興事業を行い、個性豊かな地域文化の創造を図るため次の事業を行った。

総括的事項

第4期中期経営計画（平成28年度～平成32年度）に沿った運営に努めた。

- (1) 文化芸術に接する機会の提供については、クラシック音楽をはじめ、伝統芸能、舞踊等34事業を行い、個性豊かな県民文化の振興に努めた。
- (2) 文化芸術に関する活動への助成については、自主的で個性的な文化活動団体等57件に対し財政的な支援を行い、地域における文化芸術の振興に努めた。
- (3) 茨城県立県民文化センターの運営については、指定管理者として施設利用の促進をはじめ、利用者サービスの向上と施設の適正管理に努めた結果、施設全体の利用率は昨年度と同水準の79.6%、施設全体の利用者数は597,622人となった。
- (4) アクアワールド茨城県大洗水族館については、9月の3連休の台風襲来、1月以降の降雪、寒波等の影響により入場者数の落ち込みが見られたものの、水族館が本来持っている「展示」「普及」「研究」の3つの機能を相互に連動させ、魅力ある海の総合ミュージアムとして効果的かつ円滑な展示と運営に努めるとともに、栃木・埼玉等近隣の道の駅、文化施設等でのPRをはじめ、SNSを含む様々な媒体を活用した誘客活動を行った結果、昨年度とほぼ同数の1,129,308人の入場者を迎えることができた。

1 法人運営事業

県から指定管理を受けた茨城県立県民文化センターの管理運営及び財団自ら運営するアクアワールド茨城県大洗水族館並びに便利施設としてのレストラン・売店・駐車場等の自主事業について、県及び各事業所と緊密な連携を図り業務の進行管理及び事業の推進に当たるとともに次の事業を実施した。

なお、平成28年度事業に係る茨城県監査委員による監査では、出納その他の事務の執行において適正に処理されたものと認められ、また、県出資団体経営評価においても、平成28年度の経営状況について「概ね良好」の評価を得た。

ア 理事会、評議員会の開催

平成28年度事業報告及び決算、平成30年度事業計画及び収支予算案等について審議するため、理事会、評議員会を開催した。

(開催実績)

項目	開催日時	議案
監事監査	平成 29 年 5 月 15 日	平成 28 年度事業報告及び決算等
平成 29 年度第 1 回理事会 (出席 12/12)	平成 29 年 5 月 18 日	第 1 号議案：平成 28 年度事業報告及び決算について 第 2 号議案：平成 29 年度収支補正予算について 第 3 号議案：職員就業規則の一部改正について 第 4 号議案：平成 29 年度定時評議員会の開催について
平成 29 年度定時評議員会 (出席 9/11)	平成 29 年 6 月 1 日	第 1 号議案：評議員の選任について 第 2 号議案：役員を選任について 第 3 号議案：平成 28 年度事業報告及び決算について
平成 29 年度第 2 回理事会 (決議の省略による理事会)	平成 29 年 6 月 12 日	提案事項 1：理事長 1 名選定の件 提案事項 2：専務理事 1 名選定の件
監事監査	平成 29 年 12 月 4 日	平成 29 年度上半期事業報告及び収支決算等
平成 29 年度第 3 回理事会 (出席 11/12)	平成 29 年 12 月 18 日	第 1 号議案：平成 30 年度上半期自主公演事業の計画 (案)及び収支見込み(案)について 第 2 号議案：茨城県立県民文化センター利用料金規程 の一部改正(案)について
平成 29 年度第 4 回理事会 (出席 11/12)	平成 30 年 3 月 26 日	第 1 号議案：平成 29 年度収支補正予算(案)について 第 2 号議案：平成 30 年度事業計画(案)及び収支予算 (案)について 第 3 号議案：組織の改正(案)について 第 4 号議案：組織改正に伴う諸規程の一部改正(案)等 について 第 5 号議案：平成 29 年度臨時評議員会の開催について
平成 29 年度臨時評議員会 (決議の省略による評議員会)	平成 30 年 3 月 28 日	提案事項 1：理事の選任について 提案事項 2：定款の一部変更について
平成 29 年度 5 回理事会 (決議の省略による理事会)	平成 30 年 3 月 29 日	提案事項：専務理事の選定について

イ 運営指導の実施

事務事業の効率化と合理化を図るため、次の各項目について運営指導を行った。

- (ア) 各事業所の懸案事項等の調査検討と対応策の推進
- (イ) 各事業所の事業推進指導及び進行管理
- (ウ) 上半期決算ヒアリングの実施による上半期の実績検証及び下半期に向けた対策の検討
- (エ) 会計経理等に関する各事業所への実務指導

ウ 職員研修の実施

職員の資質向上及び職務能率増進のため、次の研修を実施した。

(研修実績)

区分	研修名	人数	備考
財団主催研修	新採研修	6	新規採用職員
公社等連絡協議会主催研修	一般研修	9	第 1 部から第 5 部課程研修
	特別研修	13	応接研修, 会計研修, ライフプランセミナー等
危機管理研修		32	普通救命講習会
各種セミナー研修		391	情報セキュリティセミナー, アートマネジメント研修, 英語研修, 公文協研修, 通信研修, 海外研修等
計		451	

2 公益目的事業1（文化振興事業）

（1）自主公演事業（主催公演 9 事業、共催公演 18 事業、計 27 事業）

ア 普及事業（主催 3 事業）

第 43 回茨城県新人演奏会を開催し、茨城県の有望な新進演奏家に発表の場を提供するとともに、有望な演奏家の発掘に努め、本県音楽文化の向上を図った。また、松竹大歌舞伎及びハンガリー国立歌劇場公演に合わせて歌舞伎やオペラの歴史と本公演の見どころを紹介した講座を開催し、舞台公演に対する理解を深めてもらうことで文化芸術の普及を企図した。

イ 参加創造事業（主催 3 事業）

世界最高峰のオーケストラ（ウィーンフィル・ベルリンフィル）のトップ奏者で編成している「ウィーン＝ベルリン ブラスクインテット」と本県を代表する吹奏楽団（水戸市民吹奏楽団・常総学院高等学校吹奏楽部）による合同演奏会を開催し、地元音楽団体に貴重な体験の場を提供して、音楽の魅力を伝えるとともに国際交流の推進を図った。

また、茨城県新人演奏会の歴代受賞者や登録アーティストを活用し、独自に企画した演奏会を開催し、新進演奏家の支援と育成に努めるとともに、そのステップアップを後援した。

ウ 鑑賞事業（主催 3 事業、共催 18 事業、計 21 事業）

400 年以上の歴史を持つ日本の伝統芸能である「歌舞伎」をはじめ、ショパン国際ピアノコンクール覇者で、国際的注目を浴びている「チョ・ソンジン」によるピアノリサイタルや世界で活躍するウクライナのバレエ・カンパニー「キエフ・クラシック・バレエ」など、県民要望に出来る限りで応えることを目的に、多種多様なジャンルの舞台公演に接する機会を提供した。

また、「加藤登紀子 百万本のバラコンサート」では、野口雨情の詩の朗読・演奏や県内のアマチュア合唱団との共演など、本県の文化的遺産を取り入れた演奏会を提供し、より上質で内容の濃い文化振興を図ることができた。

（公演実績）

区分	ジャンル等	実施日	公演名	会場	回数	入場者数
普及事業	講座	7/29（土）	舞台公演をより楽しむ会「歌舞伎」	県文小ホール	1	336名
		10/25（水）	舞台公演をより楽しむ会「オペラ」	県文小ホール	1	356名
	新進演奏家育成	9/10（日）	第43回茨城県新人演奏会	県文大ホール	1	640名
参加創造事業	地域音楽活性	12/17（日）	ウィーン＝ベルリン ブラス・クインテット	県文大ホール	1	1,184名
	新進演奏家育成	12/16（土）	ミュージックカフェ Vol.03	県文小ホール	1	339名
		3/10（土）	新人演奏会歴代受賞者コンサート	県文小ホール	1	207名
鑑賞事業	演劇	8/19（土）	WAHAHA 本舗全体公演「ラスト3」	県文大ホール	1	1,266名
		12/2（土）	劇団鳥獣戯画「狂言ミュージカル」	県文小ホール	1	362名
	伝統芸能	7/29（土）	松竹大歌舞伎 八代目中村芝翫襲名披露公演	県文大ホール	1	1,263名
		11/23（木）	市川海老蔵「古典への誘い」	県文大ホール	2	3,023名

鑑賞事業	音楽 クラシック	6/30 (金)	フジコ・ヘミング&モスクワ・フィルハーモニー管弦楽団	県文大ホール	1	1,380名
		1/24 (水)	チョ・ソンジン ピアノリサイタル	県文大ホール	1	794名
	音楽 ポップス	4/29 (土)	和楽器バンド HALL TOUR2017	県文大ホール	1	1,340名
		5/20 (土)	谷村新司コンサートツアー2017	県文大ホール	1	1,127名
		5/21 (日)	ゴスペラーズ坂ツアー2017	県文大ホール	1	1,458名
		6/18 (日)	森山直太郎 15th アニバーサリーツアー	県文大ホール	1	1,407名
		9/1 (金)	植村花菜スペシャル・コンサート	県文大ホール	1	1,042名
		10/1 (日)	米米 CLUB コンサート「おせきはん」	県文大ホール	1	1,460名
		10/15 (日)	杉山清貴 acoustic solo tour2017	県文小ホール	1	330名
	音楽 その他	5/13 (土)	研ナオコ&野口五郎	県文大ホール	1	999名
		5/30 (火)	フォレストコンサート in 水戸	県文大ホール	1	1,300名
		7/22 (土)	ブラスト!	県文大ホール	1	1,420名
		8/26 (土)	加藤登紀子百万本のバラコンサート with 東京ニューシティ管弦楽団	県文大ホール	1	1,056名
		9/26 (火)	葉加瀬太郎コンサートツアー2017	県文大ホール	1	1,458名
	舞踊	4/23 (日)	中国国家京劇院	県文大ホール	2	2,293名
		7/25 (火)	キエフ・クラシック・バレエ チャイコフスキー「夢の三大バレエ」	県文大ホール	2	1,254名
	演芸	10/8 (日)	春風亭小朝・桂文珍	県文大ホール	1	1,017名
計 27 事業 (主催 9 事業, 共催 18 事業)					30	30,111名

(2) 受託事業

ア いばらき文化芸術創造・発信事業

茨城県新人演奏会入賞者の新進演奏家をソリストに迎え、プロのオーケストラ（東京室内管弦楽団）との共演によるクラシックコンサートを鹿嶋市と東海村の2会場において入場無料で開催し、次世代を担う子どもたちに良質な音楽を提供するとともに、新進演奏家の育成を図った。

また、1858年に創設されグスタフ・マーラーも音楽監督を務めた名門歌劇場によるオペレッタの最高傑作「こうもり」を催す等、海外の優れた舞台芸術を低廉な料金で提供し、本県の文化芸術の振興に寄与した。

さらに、県民等が自主的に文化活動に関わるに当たっての実践的な知識や手法等を習得する「アートマネジメント講座」を開催したほか、児童生徒が体験をとおして優れた文化芸術に触れることができる「文化芸術体験出前講座」を実施し、文化の担い手の育成と文化活動団体等が活躍できる場を提供した。

(事業実績)

ジャンル等	実施日	公演名	会場	回数	入場者数
オーケストラ	8/5 (土)	みんなで楽しむオーケストラ	鹿嶋勤労文化会館	1	550名
	8/6 (日)	・8/5:海老原恭平 (サクソ) ・8/6:坂口大介 (サクソ)	東海文化センター	1	470名
オペラ	10/25 (水)	ハンガリー国立歌劇場「こうもり」	県文大ホール	1	1,004名
器楽	3/24 (土)	第14回茨城国際音楽アカデミー in かさま水戸特別公演	県文大ホール	1	748名
講座	12/1 (金) 12/21 (木) 1/11 (木) 1/23 (火) 2/27 (火) 3/15 (木)	アートマネジメント講座 (6回)	県文集会室	1	112名
アウトリーチ	4月～2月	文化芸術体験出前講座 ・音楽:60校 ・美術(絵画・書・陶芸):29校 ・伝統文化(華道・茶道):19校	県内小中高等学校, 特別支援学校	108	15,923名
計5事業				113	18,807名

イ 文化プログラム推進事業

児童・生徒が質の高い文化芸術に触れることを目的に、本県出身等の芸術家を講師に迎え、対話型のワークショップによる講座「子ども文化芸術大学」を新たに実施し、豊かな感性や創造性、表現力の育成に努めた。

また、2019年の「いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会」及び2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」のスポーツの祭典において、本県文化の魅力を国内外に発信することを目的に文化プログラム推進事業を新たに立ち上げ、広く県民の参加を得られ、かつ本県文化を認識してもらえる事業を公募した。

(事業実績)

実施日	事業名	会場	入場者数
10月～1月	子ども文化芸術大学 ・オペラ講座 (3回) ・能楽講座 (2回) ・鼓講座 (2回) ・三味線講座 (2回) ・演劇講座 (1回)	県内小中学校	2,083名
通年	県民企画公募型事業 ・文化プログラム企画公募 (9/1～9/30) ・優秀事業の選定	—	応募数:91点 採択数:3事業
計2事業			—

(3) 財団振興事業

財団振興積立資産を活用し、各事業所で広報媒体を選定し公演やイベント等の広報を行い誘客促進に努めた。

(事業実績)

項目	内容	金額(円)
事務局	茨城新聞月極広告(52回), 読売新聞 他	746,566
県民文化センター	茨城新聞月極広告(52回), 茨城朝日 他	743,800
大洗水族館	映画館30秒CM上映(前橋・高崎)	620,000
その他	振込手数料等	4,349
合計		2,114,715

※ 茨城新聞月極広告は事務局と県民文化センターの合同広告

(4) 文化芸術活動への助成

県内各地で自主的で個性的な文化活動を行っている文化団体等に対して助成を行い、団体の活動の活性化に資するとともに、地域における文化芸術の振興に寄与した。

(助成実績)

申請件数	交付決定件数	助成件数	助成額(円)
70	59	57	19,131,000

(5) 市町村文化施設及び地元演奏家への支援

県内の公立文化施設で構成する県公立文化施設協議会の会長館として会員館と連携を図り、情報交換及び職員研修等を行ったほか、県内で活動している音楽家や文化団体の支援を行った。

- ・茨城県公立文化施設協議会 会員館 : 34 館
事業内容: 総会・各種研修会等の実施(4回)
- ・文化活動団体等への後援: 11 件
- ・県内公立施設等への演奏家派遣: 6 件(12名)

(6) 県民文化センター管理運営事業

[指定管理事業]

県民の文化活動の拠点施設として、利用者のニーズに対応しながら安全・安心で快適に施設が利用できるよう管理運営にあたった。

本年度における施設の利用率は、施設全体で昨年度と同水準の79.6%、施設利用者数は、597,622人となった。

なお、開館から50年以上が経過し施設の老朽化が進行していることから、利用者の安全確保、不具合解消及び環境整備等を目的として計36件の修繕を実施し、施設の長寿命化を図るとともに利用者が安全・安心で快適に施設を利用できるよう努めた。

ア 施設の利用促進及びサービスの向上

(施設利用状況)

() は前年度実績

区 分	利用日数(日)	回 数(回)	利用者数(人)	利用率
大ホール	263(261)	645(640)	256,643(258,718)	85.7(83.9)
小ホール	244(240)	550(528)	69,857 (74,791)	84.7(87.0)
本館集会室	332(326)	3,491(3,252)	93,592(100,534)	95.7(96.5)
分館集会室	318(314)	1,786(1,692)	39,055 (40,783)	93.3(90.2)
和室(本館)	188(164)	402(332)	3,523 (4,085)	54.5(48.7)
一般展示室	288(286)	852(797)	71,251 (64,334)	85.0(83.6)
県民ギャラリー	200(237)	200(237)	63,701 (61,637)	59.5(69.1)
計	1,833(1,828)	7,926(7,478)	597,622 (604,882)	79.6(79.7)

※ 利用率は、利用可能日に対する利用日数の割合。

・ 施設の休館等状況

小ホール照明設備改修工事により平成 29 年 12 月 18 日から平成 30 年 2 月 9 日まで小ホール休館。

(収支状況)

単位：円

事 項	平成 29 年度	平成 28 年度	比較増減
指定管理料収入	185,880,000	185,760,000	120,000
利用料金収入	105,315,223	89,599,401	15,715,822
手数料収入	5,221,869	7,332,049	△ 2,110,180
雑収入	1,057,684	1,850,418	△ 792,734
収入計	297,474,776	284,541,868	12,932,908
支出	288,235,705	290,007,377	△ 1,771,672
当期正味財産増減額	9,239,071	△ 5,465,509	14,704,580

(ア) 割引制度の継続実施

1 月限定の施設利用料金 50%割引を引き続き実施し、閑散期の利用促進に努めた。また、県民文化センターのホームページ等を活用した広報を実施し、利用料金割引制度の周知を図った。

(割引制度対象施設の利用実績)

区 分	利用日数(日)	該当利用人数(人)	利用率(%)
平成 29 年度	59	18,174	57.3
平成 28 年度	68	18,502	68.0
増 減	△ 9	△ 328	△ 10.7

(イ) 新規利用団体への誘客及びリピーターの確保

- ・リーフレット「催し物ご案内」を毎月 11,000 部作成し、県内の集客施設など約 500 団体へ配布することにより、催事情報の周知及び利用促進に努めた。
- ・催事や施設の空き状況等に関するホームページ掲載情報を随時更新し、最新情報の提供に努めた。
- ・県内企業等訪問及び県外企業等へのダイレクトメール発送により、新規利用団体及びリピーターの確保に努めた。

(ウ) サービスの向上

- ・仕事帰りの勤労者が利用できるよう、会場受付及び公演チケット販売業務の平日の営業時間を午後 7 時まで延長した。
- ・来館者と主催者双方を対象とする満足度調査（アンケート調査）を毎月実施して調査結果を分析し、利用者からの要望に対し迅速な対処に努めた。
- ・利用者からの要望等に基づき最新鋭プロジェクターを補充するなど、備品整備に努め、利用者の利便性向上に努めた。

(エ) ワンコインコンサート事業

500 円という低廉な入場料金と県民文化センターグリルを演奏会場とすることにより、生の音楽演奏を気軽に身近で触れていただくことを目的としたワンコインコンサートを計 6 回開催した。

コンサート出演者については、茨城県出身または在住の演奏家を起用し、入場者にとって親しみやすいコンサートにするとともに、演奏家の発表の場の提供にも繋がっている。

本年度は、入場者からの要望が多かった邦楽（津軽三味線）を新たに取り入れるなど、従来のクラシック音楽のみのコンサートから、より要望に沿ったコンサートとなるよう努めた。全ての回でほぼ定員を充足し、アンケート結果も概ね好評である。

(開催実績)

開催回	開催日	内 容	出演者	入場者数
第 16 回	平成 29 年 4 月 16 日（日）	津軽三味線・民謡&ピアノ	廣原 武美（津軽三味線） 柿崎 竹美（民謡・唄・踊り） 佐山 こうた（ピアノ）	67 人
第 17 回	平成 29 年 7 月 8 日（土）	ジャズ（ギター&ボーカル）	山田 よしお（ギター） 愛田 美樹（ボーカル）	60 人
第 18 回	平成 29 年 8 月 6 日（日）	フルート&ピアノ	菊池 洋子（フルート） 室伏 琴音（ピアノ）	53 人
第 19 回	平成 29 年 11 月 25 日（土）	ファゴット&ピアノ	泉田 章子（ファゴット） 橋 知里（ピアノ）	60 人
第 20 回	平成 30 年 1 月 20 日（土）	ソプラノ独唱	川上 菜梨絵（ソプラノ） 和知 幸子（ピアノ）	56 人
第 21 回	平成 30 年 3 月 21 日（水）	ピアノソロ演奏	渡邊 真亜子（ピアノ）	48 人
入場者数合計（各回定員 60 人）				344 人

(オ) スタインウェイ体感事業

県民文化センターが管理するスタインウェイ社製のフルコンサートピアノについて、有効利用を図るとともに、管理上も良好な状態を保つ観点から、大ホールの空き日を利用して演奏希望者に対し無料で演奏機会を提供する「スタインウェイを体感しよう」を計7回開催した。

(開催実績)

開催回	開催日	参加者数
第15回	平成29年4月16日(日)	8人
第16回	平成29年5月6日(土)	8人
第17回	平成29年7月2日(日)	8人
第18回	平成29年12月2日(土)	8人
第19回	平成30年1月20日(土)	8人
第20回	平成30年2月15日(木)	8人
第21回	平成30年3月25日(日)	8人
参加者数合計		56人

※ 原則定数8人のため、応募者多数の場合抽選により決定

(カ) 県民文化センター友の会の運営

財団主催事業の支援と県民が文化に触れる機会の提供を目的として友の会を運営し、会員のニーズに応えるべく各種事業を実施した。

- ・会員数 2,023人(平成30年3月31日現在)
- ・友の会だより発行部数 年間29,400部
- ・主な実施事業

研修旅行会(年1回開催)、観劇会(年3回開催)、総会及びアトラクション等の主催、チケット割引等各種会員向けサービスの実施、友の会ガイドブックの配布

(キ) 茨城県公立文化施設協議会の運営

加盟館34館から構成される茨城県公立文化施設協議会の会長館及び事務局として理事会、総会及び各種研修会を開催したほか、加盟各館との連絡調整及び事務事業等を行った。

(ク) 全国公立文化施設協会に関する事業

公益社団法人全国公立文化施設協会関東甲信越静支部委員として情報を収集するとともに、それを県内公立文化施設に提供するなどした。また、同支部自主事業部会副部長として、その運営を補佐した。

イ 安全・安心で快適な施設づくり

開館から50年以上が経過し施設の老朽化が進む中、利用者の安全確保を最優先に、施設劣化の抑制に繋がる計画的な修繕を進めることで、施設及び附属設備の長寿命化を図った。

(ア) 施設整備計画の策定及び修繕工事の実施

利用者の利便性向上・安全確保及び施設の老朽化対策を図るため、県と協議のうえ単年度計画及び中期修繕計画を策定し、指定管理事業部門修繕工事及び県直轄工事を実施した。

a 指定管理事業部門修繕工事

点検・巡視や利用者アンケート回答の結果を踏まえ、特に障がい者や高齢者にとって利用し易い施設づくりの視点から、本館階段ノンスリップ取付工事、文化センター事務所前駐車場出入口拡幅工事、障害者駐車場ライン塗装などを実施した。また、環境への配慮から、小ホール通路LED照明器具修繕など省エネルギー対策にも努めるとともに、緊急性の高い危険個所や不具合箇所については最優先に実施し安全対策に努めた。

【主な修繕工事内容】

- ・本館階段ノンスリップ取付工事
- ・文化センター事務所前駐車場出入口拡幅工事
- ・障害者駐車場ライン塗装
- ・小ホール通路LED照明器具修繕
- ・分館1階男子トイレブース改修工事など

(指定管理事業部門修繕工事实績)

件数	金額
計 36 件	16,709,684 円

b 県直轄工事

大ホール舞台吊物機構ワイヤーロープ交換工事、ハロゲン消火設備更新工事など施設の安全性向上のための工事を行った。

また、予め利用者から要望の強かった練習室が新たに建設され、県民に音楽等練習の場を提供することとなるのみならず、利用者の利便性向上に繋がった。

【工事内容】

- ・大ホール舞台吊物機構ワイヤーロープ交換工事
- ・小ホール照明改修工事
- ・ハロゲン消火設備更新工事
- ・練習室増築工事
- ・練習室増築既存改修工事（楽屋5号ドア取付工事など）

(イ) 危機管理対策

- ・ 職員の危機管理意識と対応力の向上を図るため、職員や委託業務従事職員等を対象に防災訓練を年2回実施した（グリル厨房からの出火・大ホールからの出火）。

また、国の（通称）「Jアラート」発生時における大小ホール等での催事に対する対応方針を定めた。

(ウ) 環境への配慮

公の施設として環境に配慮しながら省エネルギーを推進したほか、水戸市偕楽園公園に隣接する施設として環境美化に努めた。

- ・ 樹木等管理において、枯れ枝等の落下事故等が発生しないよう計画的かつ適切な伐採と剪定を実施した。
- ・ 花壇やプランターの整備により、環境美化に努めるとともに季節感の演出を図った。
- ・ ゴミの分別及びリサイクルに努め、排出量削減を図った。

3 収益事業1（県民文化センター自主事業）

(1) グリル・売店の運営

県民文化センターで開催される各種コンサートや展覧会等で来館する利用者の利便施設としての役割を果たすとともに、利用者へのサービス向上に努めた。なお、グリル及び売店の利用者は約6万人となった。（文化センター全体利用者の約10%）

ア グリルの運営

- ・ 大小ホールに催し物がなく利用者が見込めない日は休業とする等、効率的な運営に努めた。
- ・ 大小ホール等利用者から注文される弁当については外注化し、職員の負担軽減及び経費節減を図った。

イ 売店の運営

- ・ 混雑時でもスムーズに購入・会計ができるよう店舗レイアウトの変更を行った。
- ・ 大小ホール等の利用状況を踏まえ営業日を決定するなどの見直しを行った。

ウ 利用状況

単位：人

事 項	平成 29 年度	平成 28 年度	比較増減
グリル利用者数	29,803	42,069	△ 12,266
売店利用者数	30,256	32,962	△ 2,706

※ グリル利用者数は、ホール利用者のほか、弁当注文者及びパーティー（宴会）参加者等を含む。

エ 収支状況

単位：円

事 項	平成 29 年度	平成 28 年度	比較増減
飲食料収益	32,391,663	40,538,519	△ 8,146,856
売店収益	15,421,453	15,763,712	△ 342,259
諸 収 益	2,813,098	1,928,838	884,260
収 益 計	50,626,214	58,231,069	△ 7,604,855
グリル事業費	58,860,495	68,346,094	△ 9,485,599
当期正味財産増減額	△ 8,234,281	△ 10,115,025	1,880,744

(2) 駐車場の運営

茨城県から管理許可を受けた千波公園・県民文化センター前駐車場を利用者が安全かつ円滑に利用できるよう管理運営を行った（利用に供した日数：365日）。

ア 利用状況

単位：台

区 分		平成 29 年度	平成 28 年度	比較増減
利用台数		137,461	171,190	△ 33,729
料 金 徴 収 状 況	全額徴収	40,961	44,926	△ 3,965
	1 / 4 免除	27,232	27,601	△ 369
	1 / 2 免除	8,851	7,496	1,355
	全額免除	55,850	57,539	△ 1,689
	還 付	4,567	33,628	△ 29,061

イ 安全対策

- ・ 満車予定の催事開催日において警備員を増員し誘導を行ったほか、主催者に水戸市消防学校跡地を臨時の駐車場として借り上げて頂くよう働きかけ、利用者の安全確保及び混雑緩和を図った。なお、警備員を増員について、必要性を検討し配置することとした。

(警備員増員実績)

事 項	平成 29 年度	平成 28 年度	比較増減
日 数 (日)	134	159	△ 25
延べ時間数 (時間)	1,686.0	2,592.0	△ 906.0
延べ人数 (人)	405	627	△ 222
金額 (円)	3,643,446	5,598,720	△ 1,955,274

(臨時駐車場借上げ実績)

事 項	平成 29 年度	平成 28 年度	比較増減
回 数 (回)	2	23	△ 21
金 額 (円)	75,100	876,300	△ 801,200

※ 主催者による借上げは除く

ウ 収支状況

単位：円

事 項	平成 29 年度	平成 28 年度	比較増減
駐車場利用料収益	27,207,020	28,594,800	△ 1,387,780
駐車場費	22,728,398	27,161,779	△ 4,433,381
当期正味財産増減額	4,478,622	1,433,021	3,045,601

4 公益目的事業2（水族館事業）

アクアワールド・大洗は、基本テーマである「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」に沿って、地域の自然と世界の水生生物の生態環境を通し、生物の多様性や自然環境・地球環境について、楽しみながら学ぶという教育と娯楽性を兼ね備えた施設として運営を行った。

また、水族館が本来持っている「展示」「普及」「研究」の3つの機能を相互に連動させ、魅力ある海の総合ミュージアムとして効果的かつ円滑な展示と運営に努めた。

誘客重点地域である栃木・埼玉県をはじめ、茨城県や群馬県における大型集客施設や東京都などでの各種キャンペーン活動の実施、新聞・テレビ等メディアへの積極的な情報発信、平成29年2月に県内全線が開通した圏央道利用を視野に入れての観光業者への営業など、年間を通して広報周知に努め誘客活動を推進した結果、総入場者数は昨年度とほぼ同じ1,129,308人を達成した（平成29年度計画人数1,138千人、計画比△8,692人、△0.8%）。

（1）入場者実績

入場者数

単位：人

区 分	有料入場者					無 料 入場者	総入場者
	大人	小中	幼児	合 計	昨年度		
一 般	420,418	53,753	43,942	518,113	525,092	123,723	1,129,308
団 体 等	254,476	95,045	61,990	411,511	408,156		
年間パスポート	8,822	1,412	3,044	13,278	13,188		
年パス2回目以降	42,229	5,000	15,454	62,683	60,756		
合 計	725,945	155,210	124,430	1,005,585	1,007,192		
平成28年度	725,413	155,352	126,427	1,007,192	—	127,121	1,134,313
比較増減	532	△ 142	△ 1,997	△ 1,607	—	△ 3,398	△ 5,005

無料入場者内訳

単位：人

区 分	3歳未満	招待券	整理券	こどもの日	県民の日 (幼児)	合 計
平成29年度	90,786	15,789	12,509	3,862	777	123,723
平成28年度	94,595	17,258	11,488	3,251	529	127,121
比較増減	△ 3,809	△ 1,469	1,021	611	248	△ 3,398

※ 整理券：学校団体の引率等

（2）飼育展示事業・調査研究事業

ア 魚類展示

魚類の飼育機器・施設の適切な管理を行い、生物の健康管理と安定した飼育環境作りに努めた。また、採集、購入、寄贈等の生物収集や繁殖した生物により、展示生物の更新や新規生物の開拓を行い、フレキシブルな展示を心がけ、広報誘客に繋げるべくそれらの情報発信を積極的に行い話題の提供に努めた。

(ア) 展示生物収集

各水槽の展示の充実を図るため、会瀬定置網や地元漁業者からの購入・寄贈、自家採集、他園館との生物交換等を実施した。

(展示生物収集実績)

<計 359 回/収集生物点数 521 種 41,790 点>

収集方法	回数	種類数	点数	主な生物
会瀬定置網から購入	50 (うち乗船 収集9回)	85	1583	シロシュモクザメ・ヤリイカ・マンボウ、タコブネ他
活魚業者、漁業者から購入 (会瀬定置網を除く)	92	92	31,776	マイワシ・コブラウオビゴング・ダルマハダカカメガイ・サワガニ他
漁業者等からの寄贈	145	130	5,670	ウナギギンポ・サメガレイ・トクビレ・ナメダンゴ・マハゼ他
県調査船(あさなぎ、いばらき丸)からの寄贈	15	91	769	サンゴノフトヒモ・サケビクニン・トゲツルボソテヅルモヅル他
自家採集(涸沼、大洗マリーナ、網走等)	29	45	1,135	アユ・シラウオ・スナビクニン・アマモ他
生物交換【搬入】(室蘭水族館、なかがわ水遊園、加茂水族館、仙台うみの杜水族館他 15 園館)	28	78	857	クロウミガメ・オオカミウオ・ホトケドジョウ・クラゲ類他
生物交換【搬出】(室蘭水族館、なかがわ水遊園、須磨海浜水族園、加茂水族館他、12 園館)	21	40	783	タカアシガニ・バリキャットシャーク・マルタ・クラゲ類他

(イ) 生物展示の充実

- a 「タスマン海水槽」を「サンゴ礁の砂地水槽」に全面リニューアルし、展示の刷新を図った。
- b アラレフグ、ウナギギンポなど県内生息確認初記録4種を収集し展示した。
- c 室蘭水族館(姉妹水族館)との生物交換で、ホッケ・オオカミウオ・オオズワイガニ等を搬入し、オホーツク海関係の展示の充実に努めた。
- d 茨城県調査船いばらき丸から寄贈された新種“トゲツルボソテヅルモヅル”を展示し、マスコミに情報発信をした。
- e 日本では2館のみで展示している稀少なイモリザメは、3月31日現在で飼育日数が5,875日に達し、日本における飼育記録を更新中である。
- f 第25回企画展「ボクらの生きもの図鑑」、第26回企画展「毒ラボ」において生体展示や付帯事業を行った。それぞれ、ゲンゴロウ等38種210点、エラブウミヘビ等21種114点を展示した。

- g 初の試みとして、秋季にミニ企画展「Welcome Baby Sharks」を開催し、サメの子供の生体及び標本展示を行ったほか、同時期に開催していた茨城県自然博物館のサメ展とスタンプラリーのコラボ企画を実施した。
- h 茨城県では稀なタコブネを会瀬定置網より収集し、約1ヶ月間展示を行い、好評を博した。

(ウ) 広報資料提供

- a タコブネ及びクロウミガメ展示等で11本のマスコミリリースを行った。
- b NHK水戸放送局の「いばっチャオ！」等13本のテレビ取材に対応し放映された。
- c 新聞、雑誌に展示生物の話題で37回の記事が掲載された。
- d 読売新聞に毎週連載の「いきもの日記」において、展示生物の紹介記事を37回掲載し、広報宣伝の一助とした。

(エ) 生物の繁殖育成

サメ・エイ類では、アラビアンカーペットシャーク・イヌザメ等12種約200点、サメ・エイ以外の硬骨魚では、ダンゴウオ・カクレクマノミ等7種約8,200点、無脊椎類ではタコクラゲ、カブトエビ等8種約5,300点が繁殖し、一部を展示に供した。

(オ) 調査・研究

- a 茨城県に来遊するサメ類の調査として、シロシュモクザメ、アオザメ等3種12点を収集し、各部計測後解剖しデータを収集した。
- b 漁師が混獲したウミガメ類3個体の標識放流を行い、内1個体には、東京大学大気海洋研究所の依頼により、人工衛星で追跡できる発信機を装着した。また、漂着したウミガメ類15個体を解剖しデータを収集した。
- c 大洗マリーナ内で6回の潜水目視調査を行い、季節毎の来遊魚を観察し、一部を採集、展示した。
- d 茨城県沖の深海生物、サンゴノフトヒモの生態について国立科学博物館と、サメ類のDNA解析やホルモンについて、理化学研究所や東京大学と共同研究を行った。

(カ) 研究発表

- a 公益社団法人日本動物園水族館協会（以下「日動水協」という。）関東東北・北海道ブロック水族館技術者研究会を、当館が開催園館となり大洗パークホテルで開催。
- b 有性生殖による造礁サンゴ類育成の取り組み（日動水協 関東東北・北海道ブロック水族館技術者研究会；口頭発表）
- c ペプチドホルモンを用いたウスエダミドリイシの育成（日動水協 関東東北・北海道ブロック水族館技術者研究会；口頭発表）
- d 水槽内におけるサンゴノフトヒモの捕食行動（日動水協 関東東北・北海道ブロック水族館技術者研究会；口頭発表）

(キ) 展示解説等

水中対話ショー「アクアウォッチング」において、夏期特別展・クリスマスなどの館内イベント開催中に特別バージョンを実施したほか、サメやマンボウ、出会いの海の大水槽で飼育員による給餌解説を実施した。また、館内及びバックヤードの案内を希望する団体等に対して臨時解説を実施した。

なお、画質が低下していた出会いの海の大水槽のサブプロジェクターを更新した。

(ク) ミュージアムパーク茨城県自然博物館水系展示水槽管理委託事業

県自然博物館の水系展示水槽の委託業務として、展示生物の入手及び水槽・水質の維持管理を行い、平成30年3月末現在、ニッコウイワナ・ウグイ・ドチザメ等77種865点の生態を展示した。また、館外においては、大洗マリーナでの潜水採集、流れ藻乗船採集等で調査収集を行い展示生物の充実を図った。

企画展「アンモナイト ワールド」及び「サメ展」等では、特設水槽の生物維持管理を行ったほか、海の日やサイエンスデーでは、「バックヤードツアー」事業に協力した。

さらに、循環ポンプ交換などの大規模改修工事の監理や標本資料の保管、博物館の定期刊行誌に寄稿するなど、博物館との連携協力を努めた。

イ 海獣展示

展示については、イルカ・アシカオーシャンライブの充実を図り、変化に富んだ演技などで誘客促進に努めた。繁忙期には、オーシャンライブの回数を増加し対応した。

また、新たに生物の生態等情報の提供及び閑散期の誘客対策として、イルカ・アシカの生態や健康管理方法などを解説するレクチャー型ライブを、1月20日から2月10日の期間内の土・日曜日で計7回実施した。

繁殖事業については、生物の血縁関係や雑種防止などを考慮してペアリングさせ、健全な繁殖計画を推進した。

調査研究については、茨城県沿岸にストランディング（漂着）した生物の調査、研究を関係団体と協力して実施した。

(ア) 展示の充実

イルカ・アシカオーシャンライブにおいて、アシカが旗を咥えてあるいは、ボールバランスをしながら、イルカの背に乗る「愛のランデヴー」を実施した。また、夏期限定のイルカ乗りやロケットジャンプなどの水中パフォーマンス、ハロウィンやクリスマスなど季節毎に実施するイベントとのタイアップなど、斬新なライブプログラムを提供した。

(イ) 生物繁殖事業の推進

鯨類は、デモプール・ホールディングプールで種別に適切なペアリングを計画的に実施した結果、バンドウイルカ「ミント」が妊娠したものの出産にはいたらなかった（9月3日死産 性別：雄 体重：17.2kg 体長：119.0cm）。

鰭脚類については、夜間に同居させるペアリングの工夫を実施した。

エトピリカは、7卵の産卵が確認され、うち5卵が孵化し4個体が順調に成長している。

また、ペンギンについても、新江ノ島水族館と浅虫水族館でそれぞれ雄1羽の生体交換をしたほか、血統的に良い卵を選定し1羽の繁殖に成功し、順調に成長している。

(ウ) 調査・研究活動の推進

ストランディングについては、鯨類12件の調査を実施し、各種データの収集に努めた。

(エ) 展示解説等

エトピリカ・ゴマフアザラシ・ラッコ・フンボルトペンギン・カリフォルニアアシカ・カピバラの6種の給餌解説「お食事タイム」を実施した。本年度は、県内及び近隣県での鳥インフルエンザの発生がなかったため、ペンギンのお散歩、カピバラ銭湯を計画どおり入場者に提供できた。

(3) 教育普及事業

生物や環境などについて、誰もが気軽に楽しみながら学ぶことができる活動を展開するため、展示物及び設備や人材の活用を図り、館内外で解説・講習・自然体験塾等の活動を実施した。さらに、「水族館探検ツアー検討会議」を設け、新たな事業展開を検討した。

また、ホームページや機関誌を通して水族館に関連した各種情報の提供に努めるとともに、学校等からの要請により、自然観察会や講演会等への講師派遣のほか、移動教室を開催した。同様に、教育機関からの実習・職場体験学習等各種団体の研修の受入れを行うとともに、生涯学習施設としてボランティア活動支援を行った。

ア 発見体験学習

生物や自然環境、水族館に対する理解を促すため「自然体験塾」や会員制教室「アクアパル」、「さかなの絵コンクール」等の事業を実施した。

(自然体験塾) 18事業 / 定員447名 / 応募総数2,293名 / 参加総数367名

実施日	内 容	対 象	定 員	応募者	参加者
4/16	海獣飼育体験①	小学生	10名	62名	10名
1/21	海獣飼育体験②		10名	97名	10名
4/23	サメ探検隊	制限なし	15名	88名	16名
5/13	バッコ釣り	制限なし	20名	129名	荒天中止
5/28	磯の生き物大探検	小中学生と保護者	20名	106名	15名
5/20~21 9/30~10/1 2/24~25	水族館ナイトキャンプ (4回実施) 夜の水族館と展示生物の生態観察と館内ナイトキャンプ。1泊2日で実施。	小学生以上	180名 各回45名	1,081名	132名
10/14~15		大人限定 (20才以上)			
6/17	船から探る大洗の海 (午前・午後各1回)	小中学生と保護者	48名 (各24名)	141名	45名

6/24	那珂川中流大探検	制限なし	15名	77名	15名
7/1	深海生物のふしぎ	制限なし	15名	121名	16名
7/8～9	水族館をつくろう	小学4～6年生	15名	36名	15名
10/29 3/10	生きもの飼育体験（海獣編） 生きもの飼育体験（魚類編）	制限無し	10名 20名	76名 96名	13名 21名
11/11 3/3	カムバックサーモン (2回シリーズ)	小中学生と保護者 2回参加	30名	53名	16名 15名
1/27	「かまぼこ」づくりにチャレンジ	小中学生と保護者	25名	26名	17名
2/17	クラゲのふしぎ	制限なし	14名	104名	11名

(大人向け「マスタースクール」)

4事業/45名

実施日	内 容	対 象	定 員	応募者	参加者
6/3	海獣類の不思議	中学生以上	15名	9名	4名
9/9	海獣類の不思議	中学生以上	15名	26名	14名
11/18	サメのからだの秘密	中学生以上	15名	21名	13名
2/4	マンボウに迫る！	中学生以上	15名	16名	14名

(会員制教室/アクアパル)

3事業/延べ31名

水族館ナイトキャンプ	夜の水族館と展示生物の生態観察と館内泊。 9月2～3日に1泊2日で実施。	会員家族	12名
カニのふしぎ	カニの体のつくり注目し、内部と外部形態の観察をしながらのレクチャー。12月16日に実施。	会員家族	10名
ところてんづくり&海藻押し葉作り	ところてんづくりと海藻押し葉づくりのレクチャー。1月13日に実施。	会員家族	9名

(参加型事業)

2事業/延べ404作品

さかなの絵コンクール (事前に館内写生会開催)	展示生物を題材に絵画の制作機会を提供し、提出作品の作品展を開催。写生会を10月～11月に計5日間開催。 館内展示と表彰式を開催。	小学生 194名 (入賞11人)
絵てがみ展	季節行事や動植物、自然をテーマにした作品展の開催。毎月の優秀作品を選考して館内に展示。通年。	制限なし 応募210点

イ レクチャー及び展示解説

展示生物や自然・環境に対する理解を深めてもらうために、入館者を対象に展示生物の生態等に関する解説サービスとして各種ショープログラムを実施した。

(実施実績)

名 称	内 容
なるほど魚っちゃんぐ	お魚発見教室内レクチャールームにおいて、生物の特徴をクイズ形式で解説。新規に作成したテーマを含め、複数テーマをランダムに実施。 通年4回/日実施 <参加者数 28,895名>
アクアウォッチング	出合いの海の大水槽において、ダイバーが映し出す水中映像を通して生物の特徴や生態の紹介と質問タイムを提供。季節毎に特別バージョンを実施。 通年4回/日実施 <参加者数 126,609名>
お食事タイム	展示生物の給餌の様子を公開しながら、生物の特徴や生態の紹介と質問タイムを提供。 対象生物ごとの実施回数、参加者数は以下のとおり。 エトピリカ： 2回/日 <参加者数 23,419名> ゴマフアザラシ： 2回/日 <参加者数 21,043名> ラッコ： 3回/日 <参加者数 39,002名> フンボルトペンギン： 3回/日 <参加者数 99,925名> カリフォルニアアシカ：1回/日 <参加者数 17,468名> カピバラ： 1回/日 <参加者数 20,462名>
水族館探検ツアー	普段見ることができない水族館の裏側を案内、解説。 3回/日実施 <参加者数 10,062名>
<探検ツアー検討会による新規展示解説> ①バックヤードウォーク ②イルカコース	① 6階キーパーデッキを使用した「バックヤード ウォーク」を4/29～5/7, 7/22～8/31, 1/1～1/8の58日間の繁忙期間限定で実施。 <延べ参加者数 129,818名> ② 閑散期対策の一環として、2月平日第3回目限定で海獣展示課専門の「イルカコース」を開催。 <前年度比較 321名 ⇒ 290名>

ウ コンピュータ情報運用管理

館内の情報端末において、水槽展示生物トピックス情報や環境保全、水族館の機能や役割等に関して情報発信を行ったほか、コンピュータシステムの正常な稼働を確保するための管理を行った。

また、ホームページにおいてアクセス件数の減少傾向が見られることから、過去のページ解析により、閲覧者の動向分析等を行い、アクセス数の多い料金案内や交通アクセスのページへのリンクを分かりやすい位置へ配置したり、当日の営業時間や日付毎のショースケジュールカレンダーを追加したりするなどの改良を加えたリニューアルを3月に実施し、閲覧者の利便性の向上を図った。

(アクセス件数：1,548,239件(昨年度1,610,414件) 1日平均4,242件(昨年度4,412件))

エ ボランティア活動支援

生涯学習の一環として、大洗水族館で活動しているボランティアグループ「マンボラクラブ」の支援を行った。毎月1回役員会を開催し、要望の集約・活動課題、研修計画等の検討・整理を進めるとともに、クラブ員を随時募集して登録者の増加を図った。また、マンボラクラブ15周年を記念して記念誌を発刊した。

(活動実績) <新規加入/3名。平成30年3月31日現在の登録者/88名>

期 日	内 容	参加人数
6/25	第16回マンボラクラブ総会を開催し、感謝状授与、活動実績報告及び活動計画、新役員選出と内部講師による講話を実施	39名
10/21	全体研修を「仙台うみの杜水族館」で実施	41名
11/3～5	マンボラクラブ活動発表会「マンボラフェスタ2017」を開催	延べ37名
年度内	自然体験塾「水族館ナイトキャンプ」ほかプログラム計14回、磯観察会4回に支援参加	延べ23名
年度内	入館者を対象に5階バックヤードにおいて、ミニ探検ツアーを計37回実施	参加者計182名
◎ボランティア役員会議12回実施・年間活動者数 延べ1,808名/8,805時間		

オ 機関誌「Sea遊」の発行 <発行部数 32号7,500部 33号9,800部>

水生生物等への理解促進を支援するとともに、水族館のイメージアップ、広報を図るため、展示生物の興味深い生態やトピックス等の様々な情報を紹介する機関誌を年2回（第32・33号）発行し、国内の動物園・水族館をはじめ、県内教育機関及び栃木県の小中学校、群馬県、千葉県、埼玉県の一部の小中学校へ配付した。

カ 企画展

常設展では表現できないテーマを取り上げて、生物や自然環境についての理解を促進するため、企画展を実施した。また、平成30年度企画展テーマの検討を行った。

(実施実績)

名 称	内 容	開催期間
第25回企画展 「ボクらの生きもの図鑑 ～水生昆虫 大集合～」	身近な水域で見られる馴染み深い生き物たちの知られざる生態を紹介し、驚きと共に理解を深めてもらう事を目的とし、「子供たちの冒険心を喚起し、ワクワク感を前面に押し出す」展示の実施。	平成29年 1月21日～ 5月7日
第26回企画展 「毒・ラボ ～こちら大洗 海洋毒生物研究所～」	海洋生物の毒に注目し、毒に対するイメージを“単なる恐怖”から“深い興味”へと転換する事を目的とし、生体展示を通して生物の持つ毒と、その毒と係わる生き物たちの紹介。	平成30年 1月13日～ 5月6日

キ 深海ゾーン・海の生き物科学館及びお魚発見教室展示機器等の運用管理

各アイテムの展示機能を確保するため、随時、生物の補充や散発的に発生した動作不良、部品交換等の各種不具合の迅速な解消に努め、画質が低下していたプランクトンコーナーのプロジェクターを更新した。

お魚発見教室内の書籍を充実させ図書コーナーとし、来館者の利便性を図った。また、タッチングプール及びその周辺の改修案を立案した。その他、将来の展示物更新のために資料を収集した。

ク 自然教室等への講師派遣

教育機関等の要請に応じ、水生生物や環境等をテーマとして各種館外活動を行った。

- ・ 磯観察会では、主に熊谷市内の小学校 29 校が、大洗の海に生息するヒトデやウニなどの生物に触れる観察会を実施した。
- ・ 県内中学校から講師派遣依頼を受け、総合的な学習の時間で計画された「職業人の話を聞く会」において進路選択に繋がる講演を実施した。
- ・ 県内幼稚園・小学校をはじめ、県立こども病院入院中の児童を対象に「実際に海の生物に触れる体験」となる移動教室を実施した。

(派遣実績)

<延べ 47 団体 参加者総数 3,361 名>

名称	対象	内容	参加者数
自然観察会 ・講演会 ・授業等	熊谷市立小学校磯観察会 29 校、水戸市立常澄中学校 ほか 10 団体	学校主催の磯観察会における生物の観察、採集方法や生物の特徴等解説。学校授業等への参画・支援。	2,414 名
移動教室等	茨城県立こども病院ほか 6 団体	水族館や生物に興味を持ってもらうため、無脊椎動物や剥製へのタッチングを実施。	947 名

ケ 研修会等の受入れ

教育機関や団体からの要請に応じて、水生生物や飼育設備等をテーマとして各種館内活動を行った。

(研修会等受入れ実績)

<延べ 66 団体 参加者総数 2,591 名>

名称	対象	内容	参加者数
バックヤード見学	銚田市立野友小学校ほか 49 団体	大型水槽裏側を中心とした飼育設備の概要説明と飼育解説。	1,963 名
館内レクチャー ・講話等	県立竜ヶ崎第一高等学校 ほか 4 団体	総合学習等、生き物や飼育に関する講話やインタビューに対応。	207 名
夜の水族館	常陸大宮市立西小学校 ほか 7 団体	照明を消した館内で、昼間と異なる生物の生態観察の場を提供。	319 名
公開授業	大洗第一中学校公開授業 (事前授業含め 3 回)	いばらき理科教育推進事業に係るモデル校公開授業に協力。	102 名

コ 実習生等の受入れ

博物館相当施設として社会教育機能の役割を果たすため、実習生等を受け入れた。

(実習生等受入れ実績)

<延べ 64 件 参加者総数 100 名>

名 称	対 象	内 容	参加者数
学芸員・飼育実習	北里大学ほか 35 件	大学・専門学校の単位取得を目的とした実習生の受入れ。	42 名
職場体験学習	笠間市立笠間中学校ほか 21 件	中学生の将来の職業選択や勤労の意義を学ぶ場としての機会を提供。	51 名
インターンシップ	県立那珂湊高等学校ほか 5 件	高校生・大学生の就業意識の向上や新たな学習意欲を喚起するための機会を提供。	7 名

サ 研究発表

- a 磯採集から展示・解説活動の実践「水族館をつくろう」(日動水協教育研究会；ポスター発表) ※優秀ポスター発表賞を受賞
- b アクアワールド茨城県大洗水族館第 22 回企画展「カニマニア王国」の紹介(平成 29 年度東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会；ポスター発表)

(4) 交流・連携事業(誘客促進)

29 年度はさらなる飛躍を目指し、誘客促進活動を推進した。特に、圏央道の県内区間全線開通による広域的な道路整備により、さらに近くなった首都圏を意識した情報発信に努めた。

主たる営業として、圏央道周辺の埼玉、千葉両県で、移動水族館や観光キャンペーン、観光業者訪問、道の駅等公共施設へのリーフレット・チラシ等配布を行ったほか、県内外の市町村教育委員会を通じ、児童家庭へ割引券配布を従来の 1 回から 2 回に増やして実施した。

また、主にインターネットを利用し情報収集をしている若い世代への広報として、インターネットへの広告掲載を昨年度に引き続き行ったほか、SNS や主要新聞社、テレビ・ラジオ局などマスコミを活用した情報発信に努めた。

夏期特別企画では、「亀」の周知広報を行い、ワニガメやホウシャガメをはじめとするカメ類 25 種、メガネカイマンなど爬虫類の仲間を含む合計 30 種約 55 点の生体展示を行ったほか、世界一重いカメと言われるアルダブラゾウガメとのふれあいイベントを実施した。

閑散期対策事業として、「ウィンター☆ワンダーイルミネーション」を 12 月 9 日から実施し、昨年度装飾した世界の海ゾーンに加え、屋外エリア「出逢いの鐘」とアクアホールに幻想的なイルミネーション装飾を施し、癒しの空間を創出した。

さらに、大洗町を舞台としたアニメ「ガールズ&パンツァー」の声優を招いたトークイベントの実施やオリジナル前売券の販売により、アニメファンの集客に努めるとともに、大洗町の観光振興に寄与した。

連携事業では、茨城・栃木・群馬・福島 4 県の動物園水族館 9 園館による「ファイト 7 プラス 2 (3 月より「ファイト 9」に変更)」連携キャンペーンを 6 月 4 日に日立市かみね動物園で、3 月 17 日に那須どうぶつ王国で開催し、園館のマスコットキャラクターが集合して PR を行った。

ア 広報実績

テレビ・ラジオや新聞等の取材には積極的に対応し、当館の魅力を紹介した。

本年度についても、県内及び千葉県・埼玉県・栃木県などの若者や女性を対象としたメディアを活用しPRに努めた。

インターネット広告として、「アドマトリックス」という広告配信システムを利用し、当館のターゲットとする客層（趣味が旅行、動物好き…等）へ情報発信を行うとともに、東日本大震災後、急速に広まったインターネット連絡網を活用し、学校関係者などに対し季節のイベント情報を発信した。また、東京都内の小学生に対して、子ども向けの環境新聞に広告を掲載するなど、教員や保護者だけでなく、児童に対しても直接周知を行った。

さらに、首都圏のF1層（20～30代前半の女性）を意識した広報として、雑誌『Hanako』ムック本とのタイアップ記事広告や東京ガールズコレクション《秋冬号》の公式冊子に大型広告を掲載するなど、流行の発信者である女性に対するPRを行った。

(広報実績)

広報媒体等	有料広報	無料広報	計
新聞掲載	23 件	203 件	226 件
タウン誌	13 件	20 件	33 件
情報誌	22 件	111 件	133 件
広報誌	15 件	21 件	36 件
テレビ	36 件	71 件	107 件
ラジオ	2 件	10 件	12 件
Web	25 件	23 件	48 件
その他	9 件	2 件	11 件
合計	145 件	461 件	606 件

イ 記念式典事業

年間入場者の節目となる式典開催と関連催事を実施した。

(実施実績)

式典名	開催日
年間入場者 100 万人達成セレモニー	2 月 12 日 (月) 318 日目

ウ アンケート調査の実施

(ア) 毎月第 4 日曜日車輦調査, 特定日調査 (GW, お盆)

(イ) 毎月第 4 日曜日入館者調査

エ 催事等

(ア) 催事実績

期 間	催 事 名	期間内入場者
2/25(土)～4/9(日)	開館 15 周年記念イベント	141,765 人
4/29(土)～5/7(日)	GWイベント 「キッズカーニバル 2017」	66,997 人
6/3(土)～7/7(金)	七夕イベント	88,764 人
7/1(土)～7/31(月)	第 42 回動物愛護標語募集	117,802 人 応募作品数 80 通
8/8(木)	サマーナイト	5,805 人
募集期間 6/1(木)～8/31(木) 投票期間 9/9(土)～10/1(日) 表彰式 10/29(日)	アクア・フォトコンテスト 2017	519,764 人 応募作品数 174 点
9/30(土)～10/31(火)	ハロウィンワールド 2017	94,408 人
10/7(土)～12/25(月)	ミニ企画「サメのこどもたち」開催記念 茨城県自然博物館コラボイベント 「シャークスタンプラリー」	182,038 人 イベント参加者 15,576 人
11/1(水)～11/30(木)	年間パスポート所持者限定プレゼント 2017	イベント参加者 6,684 人
11/23(木)～12/25(月)	アクアワールドクリスマス 2017	54,571 人
12/24(日)	アニメ「ガールズ&パンツァー」最終章 公開記念 ガールズ&パンツァー5th × アクアワールド大洗 15th トークイベン ト in Xmas	イベント参加者 抽選 527 人
12/9(土)～2/14(水)	ウィンター☆ワンダーイルミネーション	151,368 人
12/28(水)～1/12(金) 漢字募集期間 11/18(土)～12/17(木) 発表日 12/28(木)12時ライブ	わん！ダーイヤー2018 ・アシカによる「2018年あなたの目標 どんなかんじ？」大賞	55,357 人
2/24(土)～3/31(土)	開館 16 周年記念イベント 「アクアワールド☆感謝祭」	104,727 人
計	14 事業	1,617,102 人

(イ) 特別展示実績

実 施 日	催 事 名	期間内入場者
7/15(土)～9/18(月)	夏期特別企画「亀」	343,389人

(ウ) 移動水族館実績

実施日	催事名・場所
5/13(土)～14(日)	花海廊事業連携 (国営ひたち海浜公園内)
6/17(土)～18(日)	フクダヤインターパーク宇都宮
10/21(土)～22(日)	花海廊事業連携 (国営ひたち海浜公園内)
11/11(土)～12(日)	いばらきの魚わくわく祭り (イオンモールつくば)
3/4(土)～5(日)	イオンモール浦和美園
5 事業	

(エ) キャンペーン及び誘客営業の活動実績

実施日等	キャンペーン名
6/4(土)	ファイト7プラス2連携キャンペーン (かみね動物園)
6/30(金)	茨城県人会連合会懇親会
7/9(日)	いばらきの夏観光キャンペーン (スマーク伊勢崎)
7/12(水)	にっぽん丸寄港歓迎イベント
7/17(月)	いばらきの夏観光キャンペーン (ベルモール宇都宮)
7/9(日)・7/30(日)	サマーナイトPRキャンペーン (イオンモール土浦)
8/27(日)	大洗・海の感謝祭 (ビルフィッシュトーナメント)
9/13(水)～14(木)	第26回ふるさと観光展 (仙台駅コンコース)
10/14(土)	2017 圏央道茨城県内全線開通に伴う観光キャンペーン (イオンモールむさし村山)
11/5(日)	PR キャンペーン (イオンモール土浦)
11/11(土)	第10回東京都食育フェア (代々木公園)
1/7(日)～8(月)	PR キャンペーン (イオンモール土浦)
1/20(土)～21(日)	PR キャンペーン (イオンモール北戸田)
2/3(土)～4(日)	PR キャンペーン (イオンモール土浦)
2/7(水)	茨城県人会賀詞交換会
2/17(土)	茨城アンテナショップ開設PR (水戸駅)
2/21(水)・2/28(水)	ふるさと茨城! 観光・物産展 (TCAT)
3/3(土)～4(日)	いばらき県産品まつり 2018 (水戸偕楽園)

3/10(土)	いばらき春観光キャンペーン (イオンモール北戸田)
3/17(土)	ファイト9連携キャンペーン (那須どうぶつ王国)
通年	県内外集客施設及び観光施設リーフレット等配付 (県内外の道の駅・大型図書館等の集客施設に割引券付リーフレットの配布)
通年	観光エージェント訪問 (期間限定商品等の県内外への営業訪問の実施)
通年	チラシ・ポスター送付及び各県民の日割引の周知活動 (茨城県, 栃木県を中心に埼玉県, 千葉県, 群馬県及び福島県へ情報提供。) (各県民の日の割引について, 集客施設へのポスター掲出や地元新聞等へ記事掲載。)
通年	県内外の小学校への営業活動 (茨城県, 栃木県, 千葉県, 埼玉県, 群馬県の各市町村の教育委員会を直接訪問し, 小学校等へチラシや割引券を配布。)
通年	マスコットキャラクターの活用 (着ぐるみ用のハロウィン衣装, クリスマス衣装を制作し, 来館者のお出迎え, 記念撮影を実施。)
計 25 事業	

(5) 管理運営部門

ア 管理運営

施設の適正な管理に努めるとともに、入場者に対する接遇の向上を目的として、全職員を対象とした「英会話研修」を実施し、職員の資質向上を図った。

また、健全な職場環境維持の一環として、ストレスチェックを財団全体で実施するとともに、メンタルヘルス研修を一般職員と管理職員に分けて開催したほか、水族館産業医との連携を密にしながら、メンタルヘルスケアの強化に努めた。

さらに、入場者の安全確保及び迅速な避難誘導を行えるよう、通常実施している消防訓練のほか、地震による津波を想定した防災訓練や、AED及び救命救急講習を開催し、危機管理対応力の向上に努めたほか、原発事故の風評被害払拭のため、放射線量の測定を毎日継続するとともに、その結果をホームページにて日々公表し安全性のアピールにも努めた。

ゴールデンウィーク期間やお盆期間等の繁忙期における駐車場混雑緩和対策としては、大洗港第4埠頭を臨時駐車場として借用し、無料のシャトルバス運行を行った。さらに、渋滞緩和策として、隣接する大洗公園駐車場の一部を7月15日から8月20日の期間借用し、入場者へのサービス向上に努めた。

イ テナント関連事業

マーケットプレイス連絡会議の事業では、休館日を利用しておもてなし向上セミナーを受講するとともに、マクセルアクアパーク品川及びお台場周辺の商業施設を視察し、先進施設のノウハウの習得に努めた。

また、案内看板、サイン及び各種備品を更新し、サービス向上を図るとともに、季節の飾りつけなどで賑わいのある演出を行い、利用促進や環境整備を企図した運営を行った。

ウ 施設整備

中長期修繕計画を基本に各種修繕工事を実施した。特に、強風や台風といった自然災害等に起因する突発的な修繕に対応するなど安全対策に努めたほか、オーシャンデッキ外壁タイルの補修や5階バックヤード床クラック修繕、魚類調餌室冷蔵・冷凍庫冷凍機更新など延べ255件（昨年257件工事）実施し、施設環境の向上に努めた。

また、機械設備の経年劣化に対応するため、昨年度に引き続き、水槽の温度を調整するために水槽の循環水と冷温水を熱交換する熱交換器更新や、取水した海水から微細な砂を除去するために設置してあるサンドセパレータの更新、安定した電気供給のための高圧引込ケーブル・複合継電器・非常用電源設備の更新など大型工事を実施した。

省エネルギーに関しては、省エネルギー委員会を毎月開催し、職員の省エネ意識の向上を図るとともに、省エネ対策として、設備容量を更新時に見直したりLED照明への転換を進めた。

また、展示や施設の見直しを含め、館内の部分リニューアルについてプロジェクトチームを立ち上げ、バリアフリー、深海、科学館、海獣の4部門について検討し、それぞれの工事費について見積りを積算した。

5 収益事業2（水族館売店事業）

（1）物販部門

スーベニアショップ「モラモラ」及びミュージアムショップ「ガレオス」は、各々のコンセプトを基に商品構成を工夫し、特色ある店舗づくりに努めた。

モラモラにおいては、夏期特別企画や第26回企画展などの関連商品や、流行を意識した商品をタイムリーに販売することで集客を図り、昨年度の売上実績を1.5%上回ることができた。

昨年度末から販売開始した「鮫カレー」は、当館初の飲食部門とのコラボ商品として来館者に話題を提供した。

また、ミュージアムショップ「ガレオス」では、店舗名であるサメの関連商品や深海生物の関連商品、希少な高額商品などの品揃えを中心に売場構成を図った。

これらの結果、物販部門の収入として、開館以来3番目の売上実績を計上することができた。

（2）飲食部門

コーヒーショップ「マーメイドギャラリー」においては、モラモラとのコラボ商品である「鮫カレー」をフードメニューの一つとして提供したことが客単価アップの要因になり、開館以来4番目の売上実績を計上した。

また、季節毎に商品展開を図り、リピーターも満足させるメニューの構成に努めた。

ア 売上実績

単位：円

物販部門		飲食部門	
区 分	売上金額	区 分	売上金額
モラモラ・ガレオス	592,192,250	マーメイドギャラリー	79,414,080
自動販売機	8,906,862		
合 計	601,099,112	合 計	79,414,080
水族館売店事業合計		680,513,192	

イ 利用率

物販部門		飲食部門	
総入場者数 (A)	1,129,308 人	総入場者数 (A)	1,129,308 人
利用件数 (B)	314,182 件	利用件数 (B)	92,521 件
利用率(B) / (A)	27.8%	利用率 (B) / (A)	8.2%

※ 利用件数は、レシート発行数（総入場者のうちレジを利用した人数）

ウ 収支状況 (単位：円)

事 項	平成 29 年度	平成 28 年度	比較増減
収益事業収入	689,433,337	677,939,713	11,493,624
支 出	659,560,651	660,222,514	△ 661,863
当期正味財産増減額	29,872,686	17,717,199	12,155,487